



Structural Characteristics of "K Column R<sup>®</sup>"  
Manufactured by Roll-Forming Process.

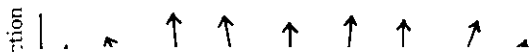
冷間ロール成形角形鋼管は設計上の優位性のゆえに一般普及して

Fin pass  
roll

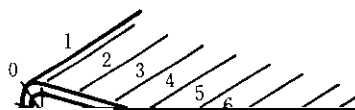
High  
frequency

### 3 構造特性





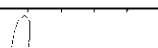
50 の範囲にあることから、変形能力に関してはほとんどの場合、現  
行冷間材の方が熱処理材を上回ると言える。



に示す繰返し単純曲げ試験を行った。柱梁接合部は梁貫通型とした  
が、パネルゾーンの変形の影響を避けるため、梁フランジは SM  
490 B 70 mmf を用いた。柱梁接合部はコラム側に開先を取ったレ

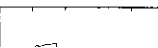
2 000

No.1 specimen:



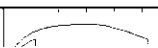
4 000

No.2 specimen:



2 400

No.3 specimen:



が 3F までの塑性変形で決定すると仮定し、簡単化のため、各階の階高や重量はそれぞれ等しく、さらに、地域係数  $Z=1$  と置くと、 $\eta$  に関し、次式が成立する。

Specimen No.	$P_d$ (kN)	$\eta_c$	$\eta_r$	$\eta_c/\eta_r$
1	913	4.7	2.5	1.88
2	1353	0.5	5.0	0.1